

パリ・マレ地区で日本の食と観光をPR

パリ事務所

6月26日(金)から28日(日)まで、パリの中心部マレ地区にて日本の食文化と観光をPRするイベント「C'est Bon le Japon! (セボンルジャポン)」が開催されました。2014年3月に続き2回目の開催となったこの催しに、クレアパリはJNTOなどとともに後援・ブースを出展しました。

マレ地区はアーティストなどが多く住む流行の発信地として知られており、無印良品やユニクロ等の日本企業のショップもあります。イベント会場は小規模な店舗の多いこの地区としては珍しい1,000㎡ものスペースを3日間にわたって使用し、1万3,000人の来場者を記録しました。

自治体の観光パンフレットは大人気

クレアブースでは、自治体の観光パンフレットを配布し、職員が来場者に日本での観光に関する質問に答えました。フランス語版や写真を多用したものがとくに人気で、各100部以上を用意したパンフレットは、初日でほぼなくなるほどの人気ぶり。日本への旅行に対する関心の高さがうかがえました。

来場者からの質問では、「東京、京都には行ったので、2回目の目的地としておすすめの地方を教えてください」「あまり知られていない小さな温泉地を教えてください」といったものがあり、「1回目で北海道から本州まで縦断し、2回目で四国を一周したので、3回目の九州旅行に向けて情報を探している」という方もいらっしゃいました。富裕層が多く集まる地区ということもあってか、すでに日本への旅行を経験し、いわゆるゴールデンルート以外への再訪を計画している方が多いように感じました。

1回目の旅行での訪問地をたずねると、東京と京都以外では白川郷(岐阜県)や厳島神社(広島県)が多く、足を運んだ理由は「友人からのクチコミで評判が良かった」が多く上がりました。



特産品のテストマーケティングと商談を実施

クレアブースでは、来場者から寄せられた観光に関する質問に職員が対応。

今回、日本の自治体では熊本県球磨郡五木村が、村の特産加工品「山うにとろふ」(豆腐の味噌漬け)を製造する地元の企業(有)五木屋本舗を支援するかたちで参加しました。五木村は、かねて企業より海外への挑戦について相談を受けていたところ、今回、国の地方創生事業(地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金)として助成を行い、出展する

運びとなったそうです。

出展にあたり、(有)五木屋本舗はフランス語で食べ方や製法を紹介したパンフレットと400個の製品を持参。3日間ですべてを売り切り、来場者から商談の話も舞い込むなど、予想以上の成果が得られたとのこと。「フォアグラのような風味があり、しかも原材料が植物という点が良い」といった意見が寄せられ、またパリ市内での販売について多数の問い合わせがあったことから、今後はフランスでの販売に向けて取り組みを続けていくとのことでした。



熊本県五木村の特産加工品「山うにと豆腐」は400個を完売。現地での商談も。

九州の駅弁をイメージした弁当も

今回のイベントでは、「九州の駅弁」をイメージした弁当が販売されるなど、地方の魅力を発信する取り組みも行われました。弁当には筑前煮やとり天など九州各県の名物料理がちりばめられ、普段パリでは食べられない珍しいおかずの数々に、多くの来場者が舌鼓を打っていました。



九州各県の料理を取り入れた弁当など、地域色を前面に出した企画も。

今後もクレアパリでは、こうしたイベントの機会を活かして日本の地方自治体のPRに取り組んでまいります。物産展や見本市の開催情報は、クレアパリのホームページや当協会広報誌『自治体国際化フォーラム』誌上、クレア各支部へのメール配信等にて告知させていただく予定です。ご出展を検討される際は下記宛先にご連絡をいただければ幸いです。

(谷崎所長補佐 熊本市派遣)

【活動支援に関するお問い合わせ】

クレア企画調査課 メール：kikaku@clair.or.jp

TEL：03-5213-1722